哲学は何のために－哲学への招待－

徳島大学総合科学部　教授
石田　三千雄（哲学）

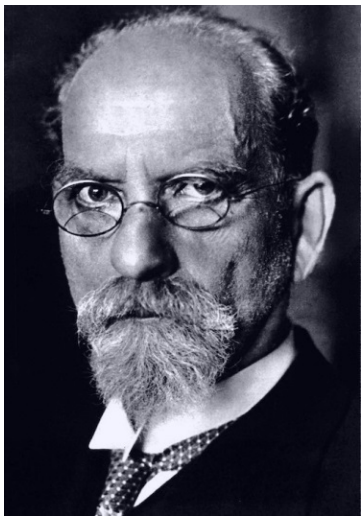
「哲学は何のために」という題目で、哲学について簡単に論じてみたい。哲学は他の学問と違って特殊な性格をもっている。それは、哲学が扱う対象は他の学問のように、明確ではないということである。哲学はいまだに理解しがたい学問にとどまっている。また哲学を研究したり、学んで何の役に立つのか、と疑問に思われたりもする。「哲学は何のために」という題目を掲げたのもそのためである。実際に『哲学は何のために』という本も出版されている。

「哲学は何のために」という問いは、他から哲学に向けて提出される問いであるだけでなく、哲学自身が、哲学思索する者自身が答えねばならない問いである。「哲学は何のために」という問いは、ある切迫感さえ与える問いである。なぜだろうか。われわれはこの問いに答えるべく、哲学というものを考えてみたい。その際、私の専門分野である、現代ドイツ哲学、特に現代の哲学者のフッサールに即して哲学について考えてみたい。ここで主に扱うのは、フッサールが雑誌『ロゴス』に 1911 年に発表した論文「厳密な学としての哲学」である。この論文の中で、フッサールは「厳密な学としての哲学」を論じている。これは学的哲学とされ、「世界観としての哲学」と対比されている。

「厳密な学としての哲学」の冒頭で、フッサールは次のように述べている。「そもそものはじまりから哲学は、厳密な学、それも最高の理論的欲求を満足させ、かつ倫理的･宗教的な観点に関しては、純粋な理性規範によって規制された生活を可能にする学であることを要求してきた。」哲学は古代ギリシアに、普遍的な学、全体としての世界についての学、一切の存在するものの全体的な統一についての学として生まれた。その後の歴史のなかで、唯一の学であった哲学は個別的特殊科学へと分化していった。

このような普遍的な学としての哲学、厳密な学としての哲学に対して、「世界観哲学」というものがある。世界観哲学は、哲学を客観的妥当性をもつものではなく、人類の発展の流れのうちに生成消滅する文化の産物だと考える。世界観哲学は人類の知恵とも言える哲学である。世界観哲学は、人生と世界の謎に対して、哲学の体系という形で答えを与えてくれる。人が通常、哲学に求めるのは、この世界観哲学かもしれない。この世界観哲学をより通俗化すれば、人生観ということになるであろう。

世界観哲学自体は高い価値をもっている。それでは、われわれはこの世界観哲学を哲学として求めればよいのであろうか。しかしそうではない、とフッサールは述べる。学的哲学と世界観哲学とは、ある仕方で相互に関係してはいるが、混同されてはならない二つの理念として峻別される。学(学的哲学)の理念は、無限なものに関わる理念であり、超時間的である。学問は、絶対的にして超時間的な価値に対する名称である。哲学は「厳密な学であろうとする意志」を放棄してはならない、とフッサールは訴える。このとき、フッサールが気迫をもって、自らの実存的な危機意識から学的哲学を求めていることが忘れられてはならないであろう。



エトムント・フッサール
1859-1938

フッサールの哲学は、20 世紀の現代思想に大きな影響を与え、また人間諸科学、たとえば社会学、精神医学、文化人類学等にもその影響は及んでいる。フッサールの哲学のエッセンスは、あらゆる先入見を去って、「事象そのもの」へと迫っていく「ラディカリズム」の精神にあると言えるであろう。現実を原理的な観点からラディカルに考え抜くこと、これがわれわれに課されている。

****

総合科学部公開セミナー

第9回:　**11 月 24 日(金)　18:30～20:00**
対　象:　一般･大学生･高校生　　参加費無料
会　場:　総合科学部1号館南棟3階　第 1 会議室
　　事前申込が必要。駐車場の利用可。
詳　細:総合科学部 HP
　　http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/
申込み･問い合わせ先:
　　徳島大学総合科学部事務課総務係
　　TEL:088-656-9779
　　E-mail: sksoumks@tokushima-u.ac.jp